日本フィル「被災地に音楽を」訪問コンサート　レポート

＜第28号＞

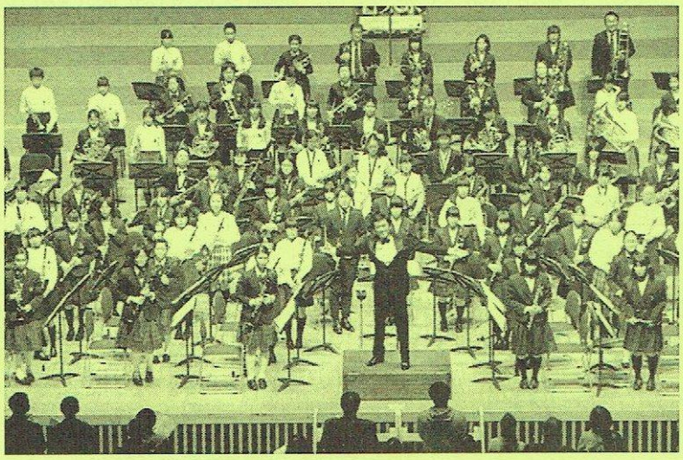
2015年1月

*2014年12月末までの訪問で被災地支援の演奏は、11年4月から通算165回となりました。

発行:(公財)日本フィルハーモニー交響楽団 〒166－0011 東京都杉並区梅里 1-6-1 TEL 03-5378-6311 FAX 03-5378-6161

＜被災地に音楽を＝東京編＞ 荻窪音楽祭みらい夢コンサート「エールをおくろう チカラをもらおう」

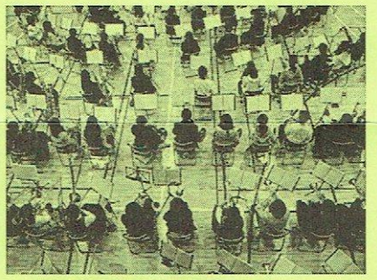
杉並公会堂のステージに南相馬「原一中」吹奏楽部が出演



日本フィルメンバー６名と、指揮の藤岡幸夫さんも友情出演

昨年11月８日、福島県南相馬市立原町第一中学校（以下、原一中）吹奏楽部を招いて荻窪音楽祭「みらい夢コンサート」が行われました。南相馬市は沿岸部の津波被害と同時に、隣接する福島第一原発の事故で、一時は全市に避難命令が出されるなど、二重の悲劇を背負った町です。学校が再開されたのは１ケ月後、放射線量の少ない地区の小学校に３つの学校がひしめくように間借りしました。あの日を境に、生徒たちはチリジリとなり、再開後の生徒数は半分となってしいました。もともと福島県の浜通りは吹奏楽の盛んな地域で、原一中も吹奏楽コンクールで輝かしい受賞歴を持っている学校でした。日本フィルの本拠地杉並区と南相馬市は、災害相互協定を結んでおり、震災後日本フィルは３年連続で、南相馬市の４つの中学校へクリニックに行っています。

「みらい夢コンサート」には、実際に同校に指導に行ったトランペット橋本、ホルン伊藤、トロンボーン岸良、クラリネット楠木、ファゴット鈴木、打楽器遠藤の６名が友情出演（ユーホニアム黒沢が賛助出演）しました。



震災後も全国大会に２年連続出場の原一中はR・シュトラウスの「ドン・ファン」を演奏。「ブラボー」の声が飛び交うすばらしい演奏でした。

顧問の阿部先生は「避難して１ケ月後にやっと学校が再開された。授業さえもまともにできないような混乱のなかで、生徒たちから真っ先に聞いた言葉が『先生、部活をやりたい』だった。どうしようと思ったが、必死で場所を確保し軽トラックを運転して楽器を運び部活を再開した。60人いた部員は20人に減っていた。部員たちはバラバラになり、その後も部員の出入りが多い中、吹奏楽部を維持するのは本当に大変だった。これまで何度も心がくじけることがあったけど、音楽と子どもたちに支えられてきた。そして全国からのたくさんの支援に支えられた。」と語りました。

音楽がつなぐ人と人、場と場。輝く子どもたち

「荻窪音楽祭」は《クラシックの街づくり》をめざして行われているボランティア主導の音楽祭です。「みらい夢コンサート」は地元の天沼小、沓掛小、天沼中、松渓中の４つの学校の合唱団と吹奏楽部も出演しました。休憩後は地元の２つの学校と原一中の120人による合同演奏、指揮は藤岡幸夫さんが友情出演しました 。杉並公会堂はほぼ満席。

終演後は、子どもたちの交流を目的とした打ち上げが行なわれ、楽器ごとに写真をとったりアドレスの交換をしたり、プレゼントをもらったりと、中学生たちは友情の交換をしました。

このコンサートのサブタイトルは「エールを送ろう、チカラをもらおう」。大人たちのつくった不条理の中でも、音楽をすることで輝く子どもたち。音楽が人と人、場と場をつなぎ、たくさんの感動を生むチカラとなりました。杉並区の大人たちが子どもたちに教わることの多いコンサートでした。

福島からの避難者が江東区に1000名
江東区カトリック潮見教会で「クリスマスコンサート」

福島の放射能汚染地域から東京都江東区に現在でも約 1000 名の方が避難されています。一番大きな受け入れ先が国家公務員宿舎東雲住宅で、近隣のカトリック潮見教会を舞台に12月20日に「避難されている方と結ぶ江東の会」と「東北サポーターズ」が中心となって、「こどもクリスマス会」が行われました。日本フィルは３回目の出演。カトリック潮見教会は、戦後の混乱期に献身的に貧しい人々を助けた北原玲子の名「蟻の町のマリア」を冠としている教会です。教会は今でも広く人々に開かれていて、近隣に住むフィリピン人や韓国人の信者さんたちの心の拠り所になっています。